

みどころいっぱい 鹿野城下町

クイズの答え 町の人に聞いてみよう!

① 伊木の堤



江戸時代初期に築造された堤防です。鹿野城外堀から流れる水をこの堤にため、水田への水の供給や干ばつの備えとして利用されていました。現在も堤の上流側には水が溢れられ、周辺の石州瓦(オレンジ色をした島根県で作られる屋根瓦)を使った家々と共に美しい景観を作りだしています。

② 牛つなぎ石



牛や馬が交通や農耕の大切な道具だったころ、町にやってきた牛馬を繋ぎ止めておくために街道沿いに牛つなぎ石を作りました。この牛つなぎ石は鷲峰石を利用して、長方形の石に綱を結ぶ穴が空けられています(写真赤丸)。鹿野城下町には複数の牛つなぎ石が現存しており、当時鹿野が交通の要衝だったことを今に伝えています。

③ 鷲峰山の眺め



鷲峰山は鹿野町の南部にそびえる標高約920.6mの孤立峰です。北からの山容が翼を広げた大鷲の姿に見えることから、この名がつけられたとされています。山の大部分は安山岩の溶岩でできており、かつては「鷲峰石」として石材に使われました。今でも鹿野の町を歩くと家の土台などに使われている様子を見ることができます。

④ 鍛冶町通り



道沿いに昔ながらの家々が並び、水路には堀からの水が流れ心地よい水の音が周囲を満たしています。かつてこの地を治めた亀井茲矩は城下町の大改修を行い、台地の傾斜を利用した水路網を作りました。これは洪水に強い反面、表層を流れる水があまりない台地の短所を補う工夫によるものです。

⑤ 下町通り



下町通りを歩くと、多くの家々の床の高さが街道の高さとかなり近いことに気が付きます。台地の上はほとんど水害の心配がなく、石積みなどにより床の高さを高くするなどの洪水対策が必要なかったのです。最低限必要になる基礎石には、近くでとれる鷲峰石が使われています。

⑥ 幸盛寺



亀井茲矩の義理の父で、非業の死をとげた武士山中鹿介の菩提寺です。もともと別の場所にあったものを、茲矩が鹿介の菩提を弔うために現在地に移転させ、鹿介幸盛の2字をいただき、幸盛寺と改めました。境内には大イチョウ(高さ34m)があります。

⑦ 鳥取市鹿野往来交流館 童里夢



16093点で、館内には地域の歴史や伝統行事を紹介する展示室や掲示パネル、特産品販売コーナーや喫茶・休憩コーナーなどがあります。レンタサイクルの貸し出しや鹿野まちなみ観光ガイドの案内もしていますので、ぜひ立ち寄ってください。

TEL.0857-38-0030 FAX.0857-38-0031

⑧ 水谷川



鷲峰山から流れる清流です。関ヶ原合戦後にこの地を治めた亀井茲矩は、鹿野の周辺の水谷川・末用川の流路を変更して、城の外郭を整備しました。その時作られた外堀、内堀、薬研堀は今も鹿野城跡に残されています。この水谷川ですが、かつては河内川に合流せずに海へ流れていました。詳しくは「ジオコラム③」をご覧ください。

⑨ 鹿野城跡



築城年は定かではありませんが、室町時代に志加奴氏によって築城されました。関ヶ原合戦後、この地を治めた亀井茲矩は鹿野城並びに城下町の大改修を行い、現在の町並みの基礎を作りました。現在鹿野城周辺は「鹿野城跡公園」として整備され、桜や紅葉の美しい憩いの場となっています。

⑩ 城山神社

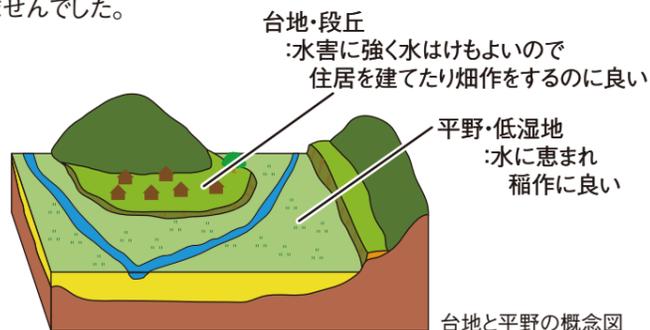


創立年代は不明ですが、素盞鳴尊を祀り、亀井茲矩がこの地を治めていた頃は鹿野城の守り神とされるなど、古くから町民により崇敬されていました。「鹿野祭り」として知られる祭礼は、昭和32年に鳥取県の無形文化財に指定され、御輿、榊、四台の屋台(山車)、武者行列、獅子舞と情緒豊かに行われます。獅子舞は昭和29年に県の無形文化財にも指定されています。

ジオコラム①

快適に暮らせる! 鹿野の台地!

鹿野の町は、かつて川が運んだ砂や礫がたまってできた「台地」の上に位置しています。台地は標高が高く水害に強い上、台地の上の面は平らなので住居を建てるのに適しています。鹿野の住居の多くは家の土台がとても低いことに気が付きます。洪水がほとんど起こらず水はけも良いので床を高くする必要がなかったのです。砂礫でできた台地は地震にも比較的強く、1943年鳥取地震でもほとんど被害が出ませんでした。



ジオコラム②

鹿野断層と鳥取地震

1943年(昭和18年)9月10日に、鳥取市を震源地とするマグニチュード7.2の地震が発生しました。この地震によって地表に現れたのが鹿野断層です。当時、鹿野町末用地区では鹿野断層沿いに地盤が東西に約1.5m移動し、約0.5m沈下しました。鹿野断層上にあったため食い違ってしまった水路は、鹿野断層のずれを確認できる場所として、鳥取県の天然記念物に指定されています。



現在の鹿野断層



鹿野断層の位置(一部推定)

ジオコラム③

川の流れが変わった? ~河川争奪~

かつて河内川の上流部は、鹿野の西で浜村川へつながり北へ流れていました。それを現在の河内川下流部が奪い、上流部を奪われた浜村川は小さな河川になりました(ジオコラム②の地図参照)。こうした現象を「河川争奪」といい、隣り合う2つの川の侵食力に差があるとき起こります。上流を奪った河川(争奪河川)はその流れが大きくなる一方、奪われた河川(斬首河川)は細い流れになってしまいます。

